

海から見る中国近代史¹

村上 衛 (京都大学人文科学研究所)

1 関心の所在

◎ 海域史研究の課題²

- ・ 新たな歴史像の呈示？：
- ・ 史料：
- ・ 前近代史への集中→「東アジア」の枠組み重視→

◎ 経済史³

○ アジア交易圏論 (1980年代～)

- ・ 川勝平太：
- ・ 濱下武志：、
- ・ 杉原薫：
- ・ アジア交易圏論の意義：
- ・ アジア交易圏論の課題： が利用可能な1860年代以降、特に19世紀末以降が中心→

○ グローバル・ヒストリーとカリフォルニア学派

- ・ グローバル・ヒストリーの背景：
- ・ グローバル・ヒストリーの目的：
- ・ カリフォルニア学派 (1990年代～)：西欧と中国の歴史的経路の類似・相違 (ウォン)、19世紀初頭まで西欧と中国の中核地域の経済発展が同水準・新大陸や石炭へのアクセスを重視 (ポメラント)
- ・ グローバル・ヒストリーの意義：

¹ 拙著『海の近代中国——福建人の活動とイギリス・清朝』名古屋大学出版会、2013年

² 拙稿「「東アジア」を超えて——近代東アジア海域史研究と「近代」」『歴史学研究』906号、2013年。

³ 拙稿「中国近代経済史研究と「制度」」『現代中国研究』35・36号、2015年

- ・ グローバル・ヒストリー（カリフォルニア学派）の課題：
- 中国の経済的「制度」の探究
 - ・ 「制度」：
 - ・ 「制度」とシステム：
 - ・ 内藤湖南の新支那論、宮崎市定の institution
 - ・ 村松祐次・柏祐賢：戦前の蓄積→
→ 継承されず
 - ・ 明清史研究（岸本美緒・黒田明伸・岩井茂樹・足立啓二）：
 - ・ 近代史（岡本隆司・本野英一）：
 - ・ 経済史研究の新制度史学派との類似性と相違点
 - ・ 着眼点：
 - ・ 閩南沿海部：宋代以来商業が発展、19世紀以降、激しい経済変動を経験、流動性が高い地域
 - ・ 19世紀の特徴：
- ◎ 社会史⁴
 - ・ 明清史：
 - ・ 都市社会史研究：吉澤誠一郎（天津）、帆刈浩之（上海）、ロウ（漢口）
 - ・ 華南沿海部（珠江デルタ）：ウェイクマン・フォール
 - ・ 閩南沿海：流動性が高く、選択肢が多く、厚みのあるエリート層存在せず
- ◎ イギリスの役割：帝国史研究・植民地史研究
 - ・ 「
」の相対化
 - ・ 「
」→「
」
 - ・ 欧米の影響を中国に即して考える：
 - ・ イギリス外交文書の使用→ミクロな視点からイギリスの役割を捉え直す
 - ・ 閩南：イギリス海軍の関与した海賊・海難といった海事に関する紛争多発

⁴ 拙稿「清末華南沿海の秩序——秩序形成のあり方を中心に」『孫文研究』56号、2015年。

2 清朝の沿海秩序の崩壊——開港前

○ アヘン戦争前のアヘン貿易

- ・ 清朝の貿易管理体制：
- ・ 貿易管理体制の動揺：廈門における貿易管理体制の動揺・広州貿易拡大による
- ・ 福建・広東沿海民によるアヘン貿易活動の拡大：華南から中国沿海全域へ
→
- ・ カントンにおける巨大な利権構造：広州近郊における
の肥大化。広州を中心とする文武官が関与
- ・ 銀流出→ →清朝が本格的な取締り開始
- ・ 牙行に依存する清朝の貿易管理体制：
- ・ アヘン貿易取締り→既存の利権構造崩壊・牙行の仲介困難に
→ (図 1・2)
- ・ アヘン貿易の拡大→ (図 3)
→清朝の貿易管理体制の崩壊

○ アヘン戦争時の福建・広東沿海民対策

- ・ アヘン戦争における清朝の一方的敗北→清朝の地方大官が敗北の責任を
に転嫁
- ・ 「漢奸」の活躍→
- ・ 戦争は一面では という図式に
- ・ 漢奸対策： といった旧来の手法
- ・ 漢奸対策の狙い：
- ・ 団練・郷勇の問題： 、敗戦→
- ・ 封港の問題： →長期の封港は不可能
- ・ 漢奸対策の失敗→清朝の沿海支配の崩壊

3 華南沿海秩序の再編——19 世紀中葉

○ 19 世紀中葉、福建沿海における海賊問題

- ・
→福建・広東人漁民・船員への打撃→海賊活動の活性化

- ・ 清朝水師に海賊統制の能力なし→
- ・ イギリス海軍による掃討・沿海部における反乱の敗北→福建人海賊の衰退
- ・ 広東人海賊の台頭：
- ・ 広東人海賊の勢力拡大→開港場貿易への打撃
- ・ 清朝地方官僚はイギリス領事の仲介でイギリス海軍を利用して広東人海賊を鎮圧→
- ・ 清朝地方官僚はイギリス海軍を した形に
- 19世紀後半、華南における海難対策の変容
- ・ 清朝の海難対策：
- 遭難者の生命の危険も
- ・ イギリス：18世紀末までは 1820年代から人名救助。19世紀後半には難破船略奪慣行なくなる。
- ・ 外国船・外国人の生命・財産の保全のためイギリス領事を介してイギリス海軍の出動。略奪を行った村への軍事行動。
- ・ イギリスは が原則→イギリス海軍の介入の減少（1860年以降）
- ・ 清朝地方官僚も沿海民統制できず→海路の安全確保のための が重要に
- 五港開港期、廈門における華人と小刀会の乱
- ・ イギリス植民地から中国に渡来してイギリス臣民を主張する華人（英籍華人）の登場
- ・ 英籍華人は紛争発生時に を利用
- 現地の官民との関係悪化→生命・財産の保護を図り秘密結社小刀会を結成
- ・ 英籍華人のリーダーを核とする秘密結社→
- 地方官僚の小刀会弾圧→小刀会の乱勃発→沿海各地での反乱→清朝による沿海の反乱鎮圧→秩序回復
- ・ 小刀会の残存勢力→東南アジアに移動→
- 19世紀中葉、廈門における苦力貿易の盛衰
- ・ 西欧における奴隷貿易の廃止→労働力需要の増大→
- ・ 移民の背景：
- 東南アジア以外の地域への移民（苦力貿易）の勃興

- ・ 苦力貿易の問題：
- ・ 労働力需要の拡大と苦力貿易の不人気→
→リクルーター（客頭）による無差別な誘拐
→
→地域社会の反発→廈門暴動（1852年11月）
- ・ 清朝地方官僚とイギリス領事は共同で苦力貿易に対処→イギリス領事のイギリス船取り締まり→イギリス以外の外国船における苦力貿易→
→イギリス領事の外国船への圧力→苦力貿易への打撃
- ・ 東南アジア移民は紛争生じず→
→移民の東南アジアへの集中進展

4 貿易の変動と華人の行動——世紀転換期

○ 清末廈門における交易構造の変動

- ・ 19世紀後半、廈門を中心とし、閩南後背地と台湾から成る経済圏が成立、中国沿岸部と東南アジアとの関係を維持
- ・ 産地間競争の激化：茶（
との競争）
・ 砂糖（
との競争→廈門茶・廈門糖の敗北→廈門からの商品輸移出衰退
- ・ 日本の台湾領有→廈門における台湾茶貿易の衰退とジャンク貿易の衰退
→
- ・ 廈門の後背地拡大の試みは失敗
- ・ 廈門を中心とする経済圏は商品流通上崩壊
- ・ 廈門の交易構造は
によって維持。閩南には華僑送金による後背地が形成。

○ 19世紀後半、廈門におけるアヘン課税問題

- ・ 廈門における外国アヘンへの課税方法：
- ・ アヘン税の使途：
- ・ 芝罘条約追加条項の発効（1887年）→海関が関税（中央）と釐金（省）を徴収→
- ・ 慈善施設（善堂）の経費捻出のためのアヘン捐→
- ・ 捐に対するイギリス領事の抗議→地方官側は商人の
を強調
- ・ 外国アヘン貿易の衰退→中国人商人が捐に反対＝捐の自発性認めず→課税失敗

- ・ 中国アヘンへの課税→外国アヘン貿易の衰退→中国アヘンの流通把握は困難
→アヘン貿易に対する統制力低下
- 清末廈門における英籍華人問題
 - ・ 東南アジアへの移民激増（1870年代～）→東南アジアから華南に渡来する華人も増大
→領事裁判権を行使する紛争は継続
 - ・ オールコックの服装規定（1868）：服装によって保護対象を確定
 - ・ 清朝地方官僚：英籍華人の身分を可能な限り否定。紛争を引き起こしがちな英籍華人の内地における活動も抑制。
 - ・ 英籍華人の経済活動：
 - ・ 英籍華人の経済活動の拡大→
→地方官僚による抑制→
 - ・ イギリス領事は英籍華人と現地中国人の零細な紛争に巻き込まれる
←
 - ・
 - 英籍華人問題の拡大→イギリス植民地当局は保護拡大を企図・イギリス領事館にその能力なし
 - ・ 日清戦争後：

5 おわりに

- 取引の特性と仲介者の機能
 - ・ 商人間の取引は零細化する傾向→
 - ・ 仲介者の機能：零細な取引、個々人の関係を束ねていく集束機能とそれに付帯する徴税機能（図1）
 - ・ 仲介者の不安定性→信用の形成困難→ (図2)
 - ・ 零細化と仲介者の集束機能のせめぎあい
 - ・ 零細化の進展は工業化の時代には不利
 - ・ 仲介者の介在の増加：
→ (図3、図4)
- 沿海社会の管理
 - ・ 19世紀末以来の貿易拡大や南京条約による開港→流動化加速→清朝の沿海統治崩壊

- ・ 沿海の秩序回復には旧来の手法は無力
- ・ イギリスなどの欧米諸国を利用→秩序再編→
- ・ 新たな制度の管理が及ばない地域→
- ・ 開港場体制がもたらす流動性の高さ→
- イギリスの役割
 - ・ 海賊掃討・関税徴収・移民管理などの業務委託の対象を外国政府・外国人に拡大→秩序回復
 - ・ 「国際公共財」の利用・「ただのり」→
 - ・ 「非公式帝国」の拡大←
 - ・ 請負のコスト：
 - ・ イギリスの限界と日本の積極性→日本との対立へ
- 海の近代中国
 - ・ 「近代」は16～17世紀の変動を経て形成され、機能してきた制度が世界的な変動によって変容を迫られていく時代
 - ・ 近代の特色：
 - ・ 既存の社会経済システムの再編→
 - ・ 類似性の拡大と多様化
- ※ 中国の「近代」は現在も継続中→世界に対して「制度」変容を迫る側面？
- ※ 「制度」の多様性・重層性：変化する表層部分
- ※ 変化しない「制度」への関心

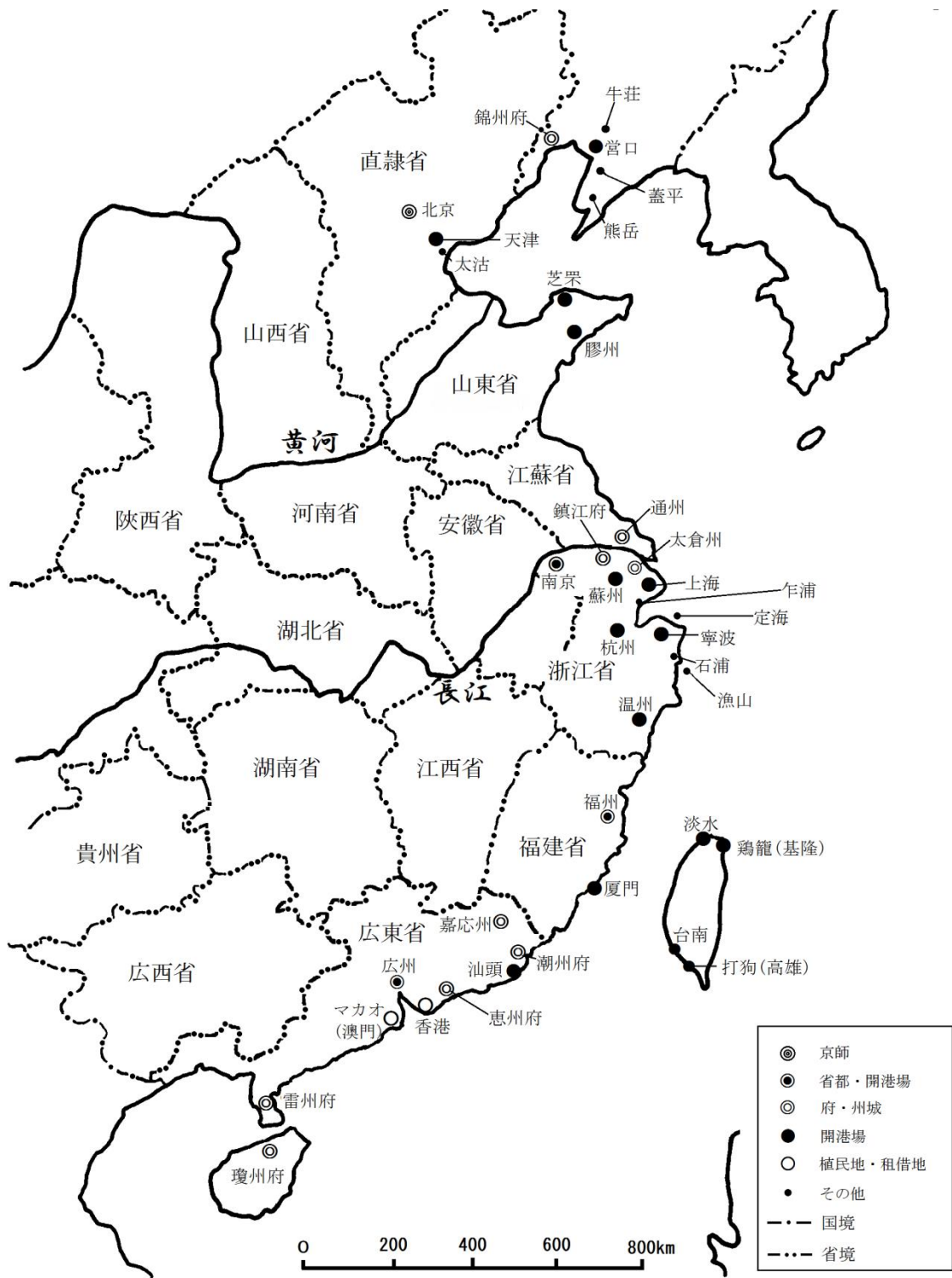
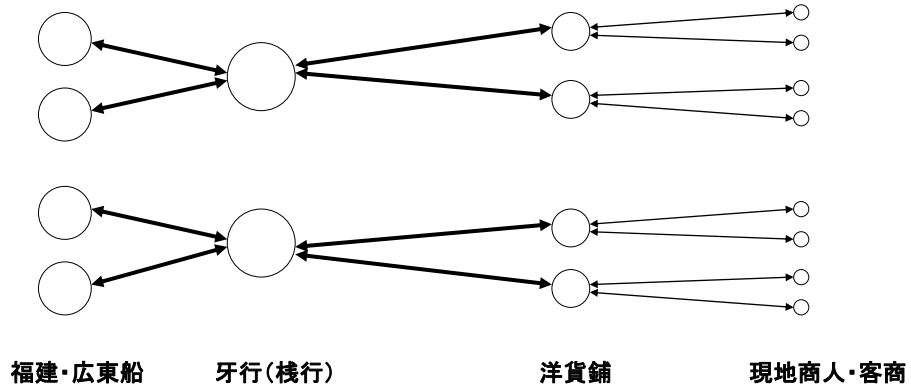
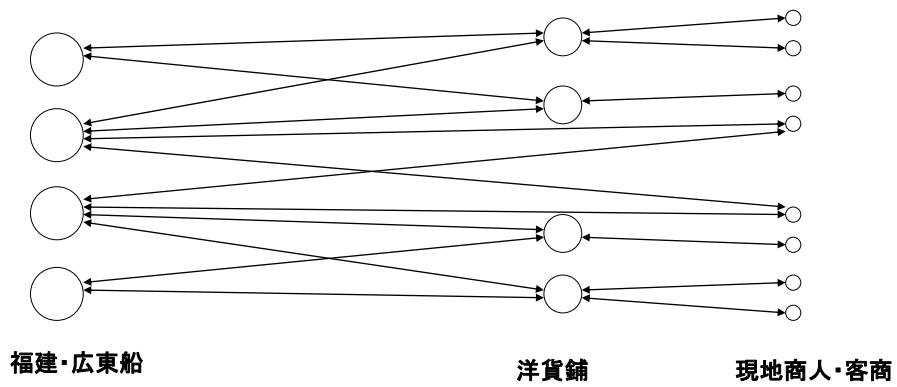


図1: 天津のアヘン貿易(取締り前)



1

図2 天津のアヘン貿易(取締り開始後)



2

図3:カントンの貿易(開港以前)

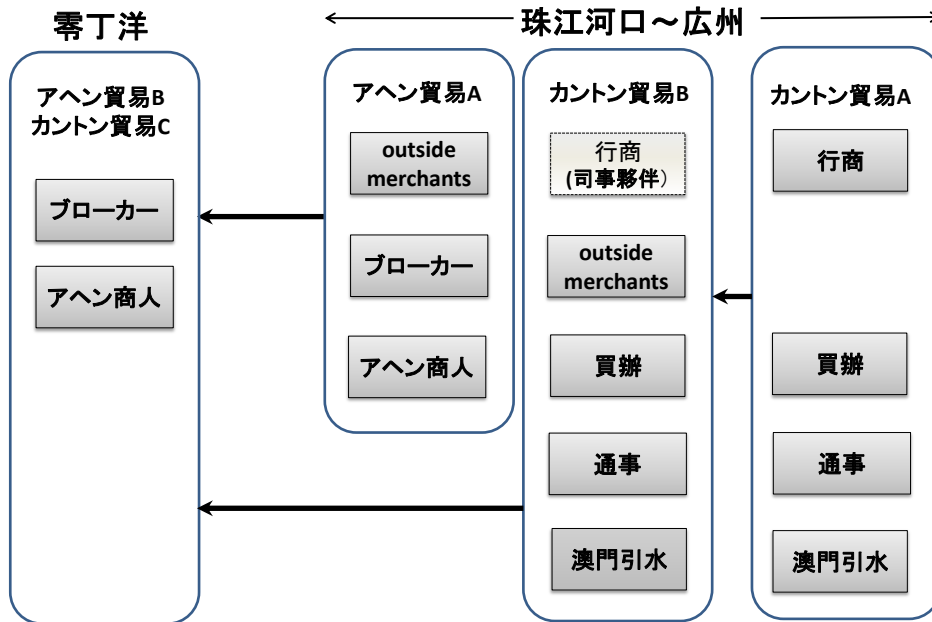
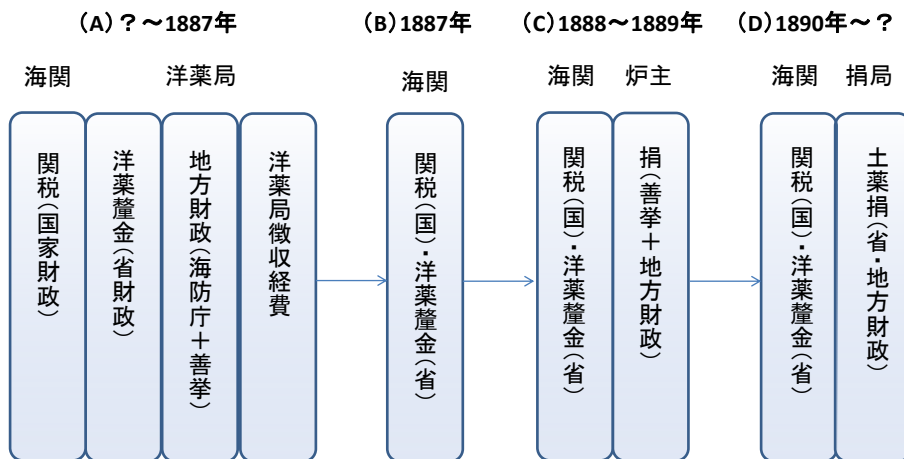


図4:廈門のアヘン課税(19世紀後半)



備考: ()内は主たる用途を示しており、全てがその用途の為に使用されるわけではない。